

免責事項および警告

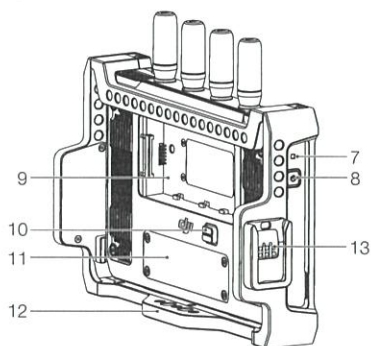
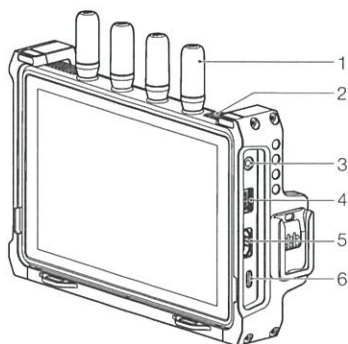
ご使用前に、この文書全体に目を通し、安全で合法的慣行についての説明を注意深くお読みください。

はじめに

Ronin 4D映像トランスミッターまたはDJI 映像トランスミッターと併用時、DJIのO3 Pro映像伝送技術を搭載したDJI™高輝度遠隔モニターは、対応デバイスと無線で接続できます。本モニターは、カメラからのライブ映像を表示し、遠隔でカメラを操作できます。モニターに拡張プレートを取り付けると、DC入力/CAN入力/HDMI出力/SDI出力を拡張できます。遠隔モニター拡張保護フレームのハンドグリップ用ポートを使用して、遠隔操作用にグリップを取り付けることができます。遠隔モニターは、DJI WB37バッテリーに対応し、またNP-Fバッテリーアダプター併用時はNP-Fシリーズのバッテリーにも対応しています。

本モニターは、DJI Inspire 3 機体および送信機と併用でき、複数の接続方法や用途に対応します。リンクや接続などの操作については、DJI Inspire 3 ユーザーマニュアルをお読みください。

概要



1. 脱着可能なアンテナ
2. 通気口
3. 3.5 mmオーディオ出力ジャック
モニタリング デバイスと接続時、トランスミッター デバイスで録音されたオーディオのモニタリングに使用します。
4. microSDカードスロット
スロットは、容量512 GBまでのmicroSDカードに対応しています。遠隔モニターはローカル録画に対応し、トランスミッター デバイスから独立した状態で録画ファイルを再生できます。[Recording Device setting] (録画デバイス設定) では、録画ファイルをmicroSDカードに保存するように設定できます。
5. HDMIポート
遠隔モニターは、映像トランスミッターと併用しない場合は、独立したモニターとして使用できます。HDMIポートから動画入力信号を受信でき、フレームガイドとセーフティゾーンの設定、露出アシスタント、フォーカスアシスタントを利用できます。

6. USB-Cポート

USB-Cケーブルを使用してDJI Assistant 2 (Roninシリーズ) ソフトウェアに接続し、デバイスのアクティベーションとファームウェア更新を行います。モニターからの動画配信では、パソコンに接続するとWebカメラ入力として使用できます。使用する前に、モニターの[Input & Output Settings] (入出力設定) でUSB-Cポートの使用を有効に設定してください。

7. 電源インジケータ

電源が入るとインジケータが点灯し、電源が切れると消灯します。

8. 電源ボタン

1回押すと、電源が入ります。電源が入っている時に、電源ボタンを1回押すと画面表示がオフになります。再度1回押すと、画面表示がオンになります。電源ボタンを2回押すとタッチ画面がロックされ、すべてのタッチ操作が無効になります。再度2回押すと、タッチ画面のロックが解除されます。

9. バッテリースロット

初期状態では、電源供給にWB37インテリジェント バッテリーを使用します。NP-Fシリーズバッテリーは、NP-Fバッテリーアダプター取り付け時に電源供給用として使用できます。

10. WB37バッテリー取り外しボタン

11. 拡張プレートポートカバー

カバー内にある拡張プレートポートは、遠隔モニター拡張プレートを取り付けると、DC / CAN入力とHDMI / SDI出力の拡張に使用できます。

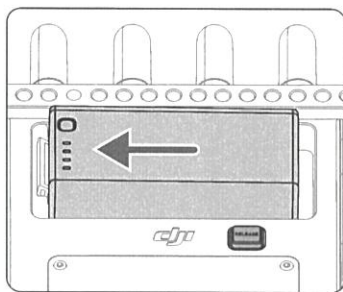
12. 拡張保護フレーム

1/4インチのねじ穴、1/8インチのねじ穴、ハンドグリップポート (概要図の13) を使用して、アクセサリを拡張保護フレームに取り付けることができます。

バッテリーの取り付け／取り外し

初めて使用する前に、WB37バッテリー充電ハブ(USB-C)で充電して、WB37バッテリーをアクティベーションしてください。詳細については、WB37バッテリー充電ハブ (USB-C) のユーザーガイドを参照してください。

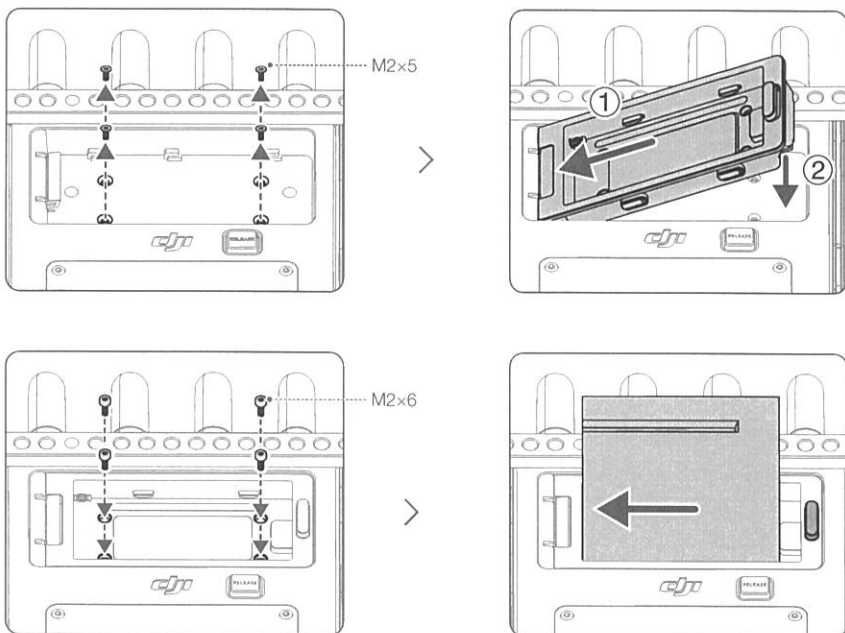
1. WB37バッテリーをバッテリースロットに挿入し、奥まで押し込みます。WB37バッテリー取り外しボタンが飛び出ると、バッテリーが正しい位置に挿入されたことを示します。ボタンの状態を確認してください。



バッテリーを取り外すには、WB37バッテリー取り外しボタンを押したまま、バッテリーを反対方向に動かすと取り外せます。

⚠ WB37バッテリーは動作環境温度範囲で使用するようしてください。いかなる方法でもバッテリーの分解や穴あけを行わないでください。バッテリーの液漏れ、発火、爆発が起こるおそれがあります。ご使用前に『WB37 インテリジェント バッテリー 安全に関するガイドライン』を参照してください。

2. NP-Fシリーズバッテリーを使用する場合は、遠隔モニター背面のM2×5皿ねじ4本を取り外し、NP-Fバッテリーアダプターをバッテリースロットに取り付けて、M2×6六角穴付ボルト4本を締め付けます。バッテリーを挿入し、コネクターの奥まで押し込みます。NP-Fバッテリー取り外しボタンが飛び出ると、バッテリーが正しい位置に挿入されたことを示します。ボタンの状態を確認してください。




バッテリーを取り外すには、バッテリーアダプターのバッテリー取り外しボタンを押したまま、バッテリーを反対方向に動かして取り外します。

アクティベーション

遠隔モニターを初めて使用する場合は、アクティベーションが必要です。モニターの電源を入れ、パソコンに接続します。DJI Assistant 2 (Roninシリーズ) を起動し、対応するデバイスのアイコンをクリックして、画面の指示に従ってデバイスをアクティベーションします。以下のリンクからソフトウェアをダウンロードしてください。

<https://www.dji.com/downloads/softwares/dji-assistant-2-ronin-series>

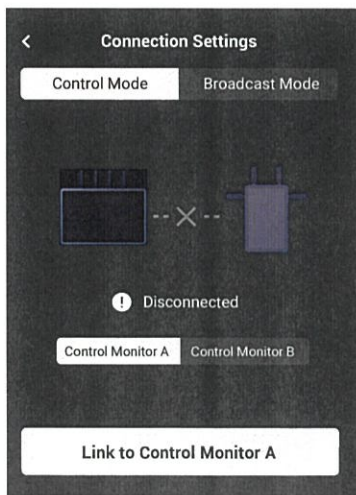
-  DJI Assistant 2ソフトウェアにデバイスが接続されていることを確認してください。また、アクティベーションした国または地域とは異なる場所でデバイスを使用する場合、DJIアカウントにログインして、正しく認識されるか確認してください。

リンク

ご使用前に、モニターと映像トランスミッターをリンクする必要があります。映像トランスミッターが互換性のあるデバイスに取り付けられていることを確認して、リンク作業を行ってください。遠隔モニターの映像伝送システムには、制御モードと配信モードの異なるリンク方法を使用したモードがあります。

制御モード

1. 遠隔モニターの電源を入れます。●●●をタップし、[System Menu] (システムメニュー)、[Connection Settings] (接続設定) の順に移動します。[Control Mode] (制御モード) を選択し、モニターを[Control Monitor A] (制御モニターA) または[Control Monitor B] (制御モニターB) に設定し、[Link to Control Monitor A/B] (制御モニターA/Bにリンク) をタップしてリンクステータスを開きます。



2. Ronin 4Dの使用：リンク接続を開始するには、Ronin 4D映像トランスミッターのリンクボタンを長押しするか、Ronin 4D高輝度メインモニターのメニューに移動し、[Transmission] (伝送)、[Link Device] (デバイスをリンク) の順にタップします。映像トランスミッターのリンク

ステータス インジケーターが赤色と緑色に交互に点滅し、デバイスがリンクしていることを示します。

DJI 映像トランスミッターの使用: DJI 映像トランスミッターの電源を入れます。映像トランスミッターのリンクステータス インジケーターが赤色と緑色に交互に点滅し、デバイスがリンクしていることを示すまで、映像トランスミッターのメニューダイヤルを長押しします。

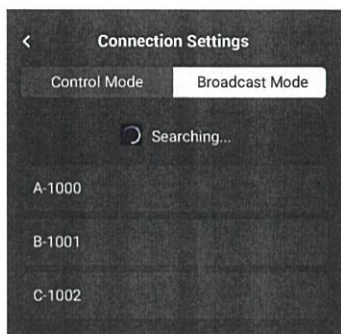
- 一度リンクが完了すると、遠隔モニターに接続状態が表示され、Ronin 4Dメインモニターの制御モニターA/Bで接続状態を確認でき、映像トランスミッターのリンクステータス インジケーターが緑色に点灯します。

配信モード

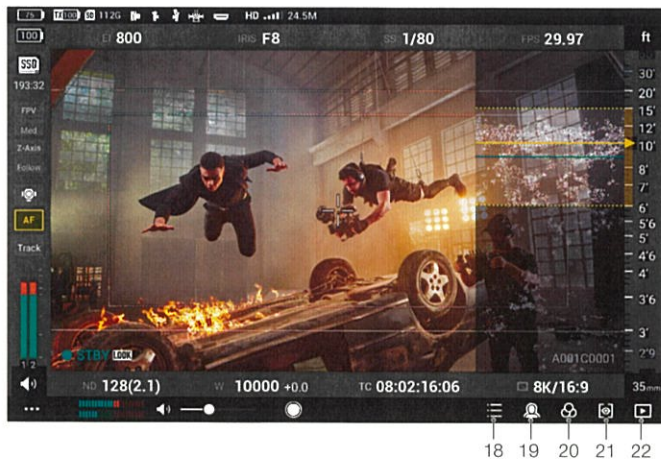
- Ronin 4Dの使用: Ronin 4D高輝度メインモニターの伝送設定で配信モードを有効にします。配信モードを有効にする前に、少なくとも1つの遠隔モニターの電源が入っていて、Ronin 4Dに接続されていることを確認してください。

DJI 映像トランスミッターの使用: 映像トランスミッターのメニューで配信モードを有効にします。

- 高輝度遠隔モニターの電源を入れます。●●●をタップし、[System Menu] (システムメニュー)、[Connection Settings] (接続設定) の順に移動します。[Broadcast Mode] (配信モード) を選択すると、モニターは配信モードが有効になっている近くのデバイスを自動検索します。モニタリングするデバイスをタップすると、対応するデバイスからのライブビューが遠隔モニター上に表示されます。画面右側のカメラ番号をタップすると、ライブビューを更新するか、モニタリングしていたデバイスを切り替えます。



モニター画面





配信モード

画面は、制御モードと配信モードに応じて異なります。以下では、制御モードの画面について説明します。配信モードでは、録画パラメーターの調整やLUTの切り替えなどの操作ができません。

1. バッテリー残量と外部電源電圧

バッテリーを電源として使用している場合はバッテリー残量が表示されます。一方、外部DC電源を使用している場合は、その電圧が表示されます。バッテリー残量が10%未満になると、バッテリーアイコンが赤色 **10** に変わります。バッテリー残量が極度に低くなると、バッテリーアイコンが **100** と表示されます。すぐにバッテリーを充電してください。

2. TXバッテリー残量と外部電源電圧

使用中の伝送デバイスや電源の種類に合わせて、デバイスのバッテリー残量や外部電源電圧を表示します。

3. ストレージ容量

microSDカードの空き容量または対応する残り録画時間をモニターに表示します。

4. 遠隔操作デバイス

接続されている遠隔操作デバイスを表示します。各アイコンに対応するデバイスについては、以下を参照してください。



5. HDMI入力デバイス

このアイコンは、HDMIポートがビデオソースに接続されている場合に表示されます。

6. 映像伝送の信号強度とビットレート

タップすると、映像伝送チャンネル設定に入ります。チャンネルモードの切り替え、信号品質の確認、チャンネルとダウンリンク帯域幅の選択ができます。

チャンネルモード：タップすると、オート/マニュアルの切り替えができます。

オートモードでは、強い干渉を受けているチャンネルを自動で回避し、干渉が最も小さく優れた信号品質のチャンネルを選択します。マニュアルモードでは、優れた信号品質とダウンリンク帯域幅を持つチャンネルを手動で選択できます。干渉が弱い環境で遠隔モニターが接続されたデバイス付近にある場合、優れた伝送品質を確保するために帯域

幅を40 MHzに設定することをお勧めします。干渉が強い環境で遠隔モニターが接続されたデバイスから離れたところにある場合、伝送距離をより長くし、耐干渉性を強化するために、帯域幅を20 MHzに設定することをお勧めします。

DJI 映像トランスミッターを使用時、映像トランスミッターが制御モードで遠隔モニターにリンクされ、配信モードが有効になっている場合、チャンネルを手動選択できますが、チャンネルモードとダウンリンク帯域幅は選択できません。

7

7. 録画パラメーター／LiDAR フォーカス

ホワイトバランス、ND、絞り、EI、絞り角度またはシャッター速度（Ronin 4Dの設定によって異なる）など、Ronin 4Dで使用する場合の録画パラメーターが表示されます。タップして、対応するパラメーターを調整します。

DJI LiDAR レンジファインダー（RS）と併用すると、LiDARの焦点距離が表示され、レンジファインダーで検出された画像の中心付近の被写体との距離、または検出されてロックされた被写体との距離を示します。

8. ジャイロスコープ制御

タップして、設定メニューでジャイロスコープ制御を有効または無効にします。有効にすると、パン軸／チルト軸／ロール軸のフォロー速度を設定したり、ジンバルを再センタリングしたりできます。詳細設定を入力して、パン軸／チルト軸／ロール軸のデッドバンドやスムージング（滑らかさ）を設定したり、コンパスのキャリブレーションを行ったり、デフォルトにリセットしたりできます。

ジャイロスコープ制御が有効になっている場合、このアイコンを長押しすると、制御が一時停止し、ジンバルは現在の姿勢を維持します。アイコンの長押しを解除すると、制御を再開します。アイコンをダブルタップすると、ジンバルが再センタリングします。



- ・システムメニューでジャイロスコープ制御が無効になっている場合、ジャイロスコープ制御アイコンはここに表示されません。
- ・ジャイロスコープ制御が有効な場合、LiDARウェブフォームは表示されません。

9. セーフティゾーン

セーフティゾーンは、撮影の構図を支援したり、動画に追加する必要のあるテレビ局のロゴやプログラムアイコンなどの情報をオーバーレイするためのスペースを事前に確保したりするのに使用できます。一般設定でセーフティゾーンを有効または無効にし、セーフティゾーンの比率を設定できます。セーフティゾーンの比率はモニタリングの基準にすぎず、実際の録画には影響はありません。

10. フレームガイド

プリセットフレームガイドを表示します。一般設定でフレームガイド率と透明度を選択できます。フレームガイド率のカスタマイズには、現在対応していません。フレームガイド率はモニタリングの基準にすぎず、実際の録画には影響はありません。

11. システムメニュー

接続設定、一般設定、ローカル再生、詳細、ヘルプが含まれます。詳しくは、システムメニューのセクションを参照してください。

12. 音量レベル

現在の音量レベルを表示します。緑色は音量が適切、黄色は過大入力に近い状態、赤色は過大入力であることを示します。

13. モニター音量

スライダーを動かすと、3.5 mmオーディオ出力ジャックからの音量を調整します。遠隔モニターにはスピーカーは内蔵されていません。3.5 mmオーディオ出力ジャックの使用時のみ音量をモニタリングできます。

14. 録画ボタン&タイムコード

タップすると、録画をローカルまたは遠隔で開始/停止します。タイムコードの右側にあるアイコンは、現在制御されている録画デバイスを示します。ユーザーは、デバイスを録画デバイス設定で選択できます。入力信号として[HDMI]が設定されている場合は、ローカル録画のみを実行します。

15. LiDAR フォーカスアシスタントの設定

このアイコンは、DJI LiDAR レンジファインダー (RS)と併用している場合にのみ有効になります。タップしてメニューに入り、LiDAR レンジファインダーとレンズに関連するパラメーターと機能を設定します。詳細については、「LiDAR フォーカスアシスタントの設定」セクションを参照してください。


16. LUT

タップすると、遠隔モニターまたは遠隔モニター拡張プレートからのSDI/HDMI動画出力のLUT効果を切り替えることができます。対応のLUTオプションは、使用する伝送デバイスによって異なります。右上隅のアイコンをタップし、microSDカードから遠隔モニターにLUTファイルをインポートして適用します。

17. 露出アシスト/フォーカスアシストの設定

フォーカスマーター：有効にすると、フォーカスマーターが画面の右側に表示されます。Ronin 4D ハンドグリップまたはDJI 3ch Follow Focusを使用時に、フォーカス調整のアシストに使用できます。フォーカスポイント情報と絞り値を読み込むと、フォーカスマーターとLiDARウェーブフォームに焦点面距離（黄色の矢印が指す部分）と被写界深度（黄色の点線の部分）を表示できます。

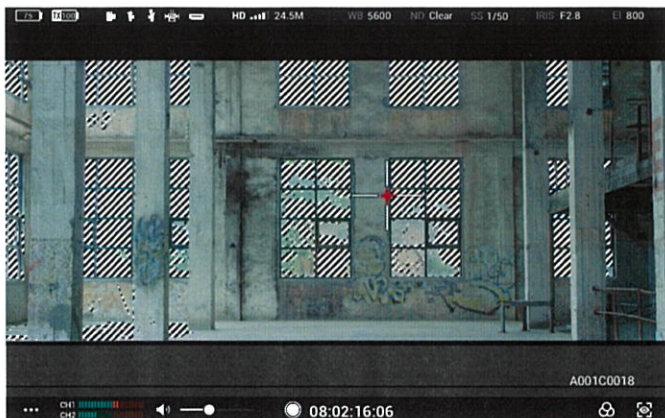
LiDARウェーブフォーム：有効にすると、LiDARレンジファインダーのフォーカスエリア内の測距点が画面の右側に簡略化されたトップダウンビューで表示されます。

-  DJI映像トランスミッターと遠隔モニターを併用する場合、LiDARウェーブフォーム機能は、DJI LiDAR レンジファインダー (RS)がDJI LiDAR レンジファインダー (RS) - DJI Transmission ケーブルハブを使用して、映像トランスミッターに接続されている場合にのみ機能します。



LiDARウェーブフォーム効果の画像

ゼブラストライプ：有効にすると、画像の露出オーバーエリアがゼブラストライプ（縞模様）で表示されます。オプションの下のスライダーを使用して、白黒レベルの割合を調整できます。



ゼブラストライプ効果の画像

ウェーブフォーム：有効にすると、画面下部に、現在の画面のハイライトとシャドウの関係やその度合いがウェーブフォームを使用して表示されます。設定メニューで、ウェーブフォームのサイズと透明度を選択します。ウェーブフォームが画像を妨げないように、モニター画面上でウェーブフォームをドラッグして位置を調整します。



ウェーブフォーム効果の画像

フォルスカラー：有効にすると、さまざまな被写体の露出値を表す色が画像に追加されます。フォルスカラーの参照を有効にすると、画面下部にフォルスカラーのチャートが表示されます。



フォルスカラー効果の画像

2回タップしてズームイン：有効にすると、モニター画面上で画面を2回タップすれば、タップされたエリアが拡大されます。画像をドラッグすると、画像の残りのエリアが表示されます。右上隅の長方形で、拡大されたエリアが画面全体のどこにあるか確認できます。2回タップを複数行うと、表示倍率を2倍、4倍、オリジナルサイズに切り替えられます。

フォーカスピーキング：有効にすると、ユーザーは画面の色とカラーピーキングおよび絞りピーキングの割合を設定できます。

Ronin 4Dメインモニターでミラーリング操作モードが有効になっている場合、遠隔モニターからRonin 4Dメインモニターの完全なライブビューにアクセスでき、パラメーターを調整できます。ライブビューでのタッチ操作は、Ronin 4Dメインモニターでの操作と同じです。以下のアイコンは、Ronin 4Dメインモニターの物理ボタンに対応しています。画面上の各アイコンをタップすると、Ronin 4Dのボタンと同じ機能を実行できます。

18. ホームボタン

タップすると、メニュー画面が開きます。

19. フォーカス ピークボタン

タップすると、フォーカスアシスト表示を有効または無効にします。この機能は、デフォルトではフォーカスピーキングに設定されています。メニューに移動し、[Display] (画面)、[Focus Assistant] (フォーカスアシスタント) の順に選択し、[PEAK Button Function] (ピークボタン機能) を[LIDAR Waveform]および[Focus Mag]に設定します。この設定に応じて、遠隔モニターの画面上のアイコンの機能が更新されます。

20. LUTボタン

タップすると、LUT表示を有効または無効にします。LUTは、カスタムマイズできます。メニューに移動し、[Display] (画面)、[LOOK]の順に選択して、LOOKにインポートされたカスタムLUTを設定します。詳細については、Ronin 4DユーザーマニュアルのLOOKの項を参照してください。

21. EXPボタン

タップすると、露出画面の有効/無効を切り替えます。この機能は、ゼブラストライプ、ウェーブフォーム、フォルスカラーに対応しています。メニューに移動し、[画面]、[Exposure Assistant] (露出アシスタント) の順に選択して、設定を適用します。

22. 再生ボタン

タップすると再生画面に入り、最後に録画したビデオを再生します。

システムメニュー

左下をタップすると、様々な設定ができるシステムメニューに入ります。

接続設定

デバイスをリンクし、制御モードと配信モードを切り替えます。

一般設定

入出力設定

HDMI/SDI OSD: HDMI/SDI出力デバイスの画面表示を有効または無効にします。

HDMI/SDI アスペクト比: Normal (ノーマル) またはCenterCrop (センタークロップ) (16:9) を選択できます。

HDMI/SDI フレームレート: Auto (自動) または24/25/30/50/60。HDMI/SDI出力デバイスが接続されている場合、モニターにフレームレートを選択するウィンドウも表示されます。デフォルトでは低遅延が選択され、この設定では[60]の設定に該当します。Auto (自動) は、この設定では[Auto]の設定に該当します。



HDMI/SDI出力機能を使用する場合は、DJI遠隔モニター拡張プレートが必要です。

入力信号: トランスミッターを入力ソースとして使用する場合は、[OcuSync]を選択してください。モニターのHDMIポートを入力ソースとして使用する場合は、[HDMI]を選択してください。

録画トリガー: トランスミッター デバイスに録画トリガー機能つきのカメラが使用されている場合、この設定で機能を有効または無効にします。

USB-C機能: ファームウェア更新にUSB-Cポートを使用する場合は、[更新]を選択してください。ウェブカメラを選択する場合、モニターからの動画配信がウェブカメラ入力として使用され、USB-Cポートに接続されたパソコンにアップロードされます。

録画デバイス

録画用デバイスを選択します。

TX+SD: Ronin 4Dと併用する場合、遠隔モニターのモニター画面の録画ボタンまたはRonin 4Dの録画ボタンで、モニターとRonin 4Dの両方を制御して、同時に録画します。録画ファイルは、Ronin 4Dのストレージ デバイスとモニターのmicroSDカードの両方に保存されます。

TX: Ronin 4Dと併用する場合、遠隔モニターのモニター画面の録画ボタンまたはRonin 4Dの録画ボタンで、Ronin 4Dを制御して録画します。モニターは、ローカル録画を実行しません。録画ファイルは、Ronin 4Dのストレージ デバイスに保存されます。

SD: 遠隔モニターのモニター画面の録画ボタンでローカル録画を操作します。トランスミッター デバイスは録画を実行しません。録画ファイルは、モニターのmicroSDカードに保存されます。

ストレージ

タップすると、microSDカードの空き容量をモニターに表示したり、microSDカードをフォーマットしたりできます。

ジャイロスコープ制御

ジャイロスコープ制御を有効または無効にします。ジャイロスコープ制御が無効になっている場合、ジャイロスコープ制御アイコンはモニター画面に表示されません。

カスタムハンドグリップ

Ronin 4D ハンドグリップがモニターに取り付けられている場合、左右のハンドグリップの特定のボタンとダイヤルの機能を設定できます。

画面設定

フレームガイド率と透明度を設定したり、セーフティゾーンやセンターマーカの表示を有効/無効にしたり、セーフティゾーンの比率と明るさを設定します。


アナモルフィック ワイドスクリーン レンズを使用している場合は、適切なアナモルフィック デスクイーズ表示率を設定して、モニターライブビューを通常のエフェクトに戻します。


特定のカメラがトランスミッター デバイスで使用されている場合、仮想ウィジェットを有効にして、モニター画面の仮想ボタンを使用してカメラパラメーターを設定します。

画面設定で、カラーキャリブレーション機能を使用することもできます。

カラーキャリブレーション

このメニューで、.CUBEファイルを使用してカラーキャリブレーション用の33ポイント 3D LUTファイルをインポートし、要件に応じてカラーキャリブレーションを適用できます。ファイル名には英字、数字、アンダーバー「_」のみを使用し、特殊文字やスペースは使用しないでください。

 カラーキャリブレーション用のファイルを生成する際は、カラーキャリブレーションの手順の前に、必ずこのメニューで[カラーキャリブレーションモード]を有効にしてください。そうしない場合、カラーキャリブレーションの適用後に色の違いが生じる場合があります。

1. カラーキャリブレーション用のファイルをmicroSDカードのルートディレクトリにコピーし、microSDカードをモニターのスロットに挿入します。
2. カラーキャリブレーションメニューで、[カラープロファイルのインポート]をタップします。カラーキャリブレーション用のファイルが画面に一覧表示されます。
3. ファイルの右側にあるをタップし、[インポート]をタップします。
4. インポートが正常に終了すると、カラーキャリブレーションがモニターに適用されます。
5. カラーキャリブレーションが不要な場合は、カラーキャリブレーションメニューの[設定をリセット]をタップします。

単位

モニター画面のフォーカスメーターの単位を、インペリアル法（フィート）またはメートル法（メートル）に設定します。

言語

言語リストでシステム言語を選択します。

ローカル再生

pt

再生ビューで、ローカル録画された動画をmicroSDカードに表示および再生します。モニターは、再生ビューに入ると、最後に録画された動画を自動的に再生します。■をタップすると、動画一覧を表示します。◀をタップすると、モニター画面に戻ります。

詳細とヘルプ

詳細ではファームウェアのバージョン情報やシリアル番号などの情報を表示でき、ヘルプではQRコードをスキャンするとビデオチュートリアルを視聴できます。

LiDAR フォーカスアシスタントの設定

DJI LiDAR レンジファインダー (RS)とDJI RSフォーカスモーター (2022)を、DJI LiDAR レンジファインダー (RS) - DJI Transmission ケーブルハブ経由で、DJI映像トランスミッターに接続する場合、モニター画面の右下にある \square または \square をタップして、設定メニューに入ります。

4

レンズの設定

使用するレンズに合わせて、レンズ プロファイルとキャリブレーションを設定します。

レンズ プロファイル

デジタルレンズを使用している場合、レンズ プロファイルは自動で読み取られます。レンズ プロファイルを手動で追加する必要はありません。対応のレンズモデルについては、DJI RS 3 Pro公式サイトの特設ページにある「DJI LiDAR レンジファインダー (RS)」セクションを参照してください。

他のレンズを使用する場合は、レンズ プロファイルを手動で入力します。最大3つのレンズ プロファイルを追加できます。対応のレンズモデルについては、DJI Transmission公式サイトの特設ページにある該当ファイルを参照してください。

画面上の[追加]ボタンをタップし、レンズの焦点距離を入力し、[キャリブレーション]をタップします。画面上の指示に従ってレンズの設定を完了させてください。

レンズのキャリブレーション

レンズ プロファイルを切り替えた後、またはフォーカスモーターの取り付け位置を変更した場合には、レンズのキャリブレーションが必要です。[キャリブレーション]をタップして、画面上の指示に従います。

フランジ距離の調整

Roninアプリを使ってレンズ プロファイルを追加した場合、ここでフランジ距離を調整することで、さまざまなレンズマウントを使用した場合のフォーカスエラーを防ぎ、より正確なフォーカス制御が可能になります。

LiDAR設定

フォーカスモード

[AF]または[MF]を選択します。

フォーカスエリア

フォーカスエリアを[ワイド]または[フレックスポイント]に設定します。PIP (ピクチャーインピクチャー) のマークボックス表示は、フォーカスエリアの設定によって異なります。設定メニューでPIPを有効にして、マークボックスを確認します。

ワイドモードでは、LiDARレンジファインダーはカメラビュー内の人物や車などの被写体を自動認識し、中心に最も近い被写体にピントを合わせます。フレックスポイントモードでは、レンジファインダーは、PIPに表示されたフォーカスボックス内の被写体にピントを合わせません。

LiDAR取り付け距離

取り付け距離とは、カメラの焦点面とLiDAR レンジファインダーの間の距離のことを指します。デフォルトの距離は75 mmで、LiDAR レンジファインダー取り付けブラケットの長さ
にLiDAR レンジファインダーの長さを加えたものです。この値を微調整して、オートフォーカスの精度を向上させます。LiDAR レンジファインダーを他の位置（カメラレンズの上部など）に取り付ける場合は、距離を調整して誤差を補正します。

トラッキング感度

5つのレベルまで設定できます。レベル1では、フォーカスの速度変化が最も遅くなります。レベル5では、フォーカスの速度変化が最速になります。

PiP（ピクチャー イン ピクチャー）

有効にすると、PiPウィンドウがモニター画面に表示され、LiDAR レンジファインダーの可視光カメラからの画像を表示します。検知マークボックスはPiP上で表示されます。

PiPウィンドウをドラッグすると位置を調整できます。

設定メニューで、PiPの倍率を[1倍]または[2倍]に設定します。[2倍]に設定すると、画像の中心を基準点として、PiP内の画像が拡大表示されます。

フォーカスエリアが[ワイドモード]に設定されている場合、PiPにはホワイト、グレー、イエローマークボックスが表示されます。

ホワイト：画像の中心近くにいる被写体を示し、自動で検知して焦点を合わせます。

グレー：画像の中心から離れた被写体を示し、自動検知して、焦点を合わせるかどうか選択できます。

イエロー：ホワイトマークボックス内の被写体に対して、遠隔モニターに取り付けられた右ハンドグリップのダイヤルまたはトリガーを使用して、被写体を切り替えるか、対象の被写体を選択します。マークボックスがイエローになると、焦点が合っている被写体がロックされたことを示します。焦点を合わせた被写体は、画像中心から離れたとしても、切り替わりません。

付録

ファームウェア更新

DJI Assistant 2 (Roninシリーズ) ソフトウェアを使用して、モニターのファームウェアを更新します。

1. デバイスの電源を入れ、USB-Cケーブルでパソコンに接続します。
2. DJI Assistant 2 (Roninシリーズ) を起動し、DJIアカウントでログインします。
3. デバイスを選択し、画面左側にある「ファームウェア更新」をクリックします。
4. ファームウェアを選択します。
5. ファームウェアのダウンロードと更新が自動的に行われます。
6. ファームウェア更新が完了すると、デバイスが自動的に再起動します。

仕様

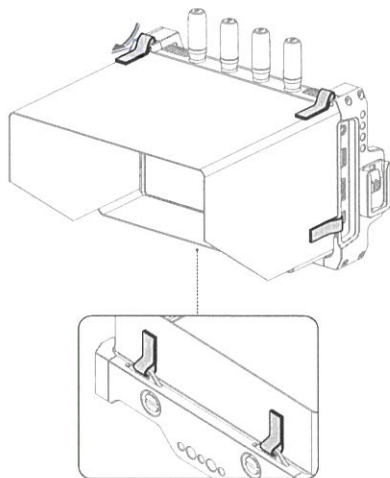
モデル	FXD2
重量	遠隔モニター拡張保護フレーム含む：768 g 遠隔モニター拡張保護フレーム除く：496 g
サイズ	遠隔モニター拡張保護フレーム含む： 214×52×166 mm（長さ×幅×高さ） 遠隔モニター拡張保護フレーム除く：184×26×158 mm（長さ×幅×高さ）
タッチ画面解像度	1920×1200
タッチ画面の明るさ	1500 cd/m ²
映像伝送システム	O3 Pro
ライブビュー品質	1080p 60fps
最大通信帯域幅	40 MHz
最大伝送距離 （障害物、電波干渉のない場合）	6 km (FCC)、4 km (CE/SRRC/MIC（日本）)
動画コーディング形式	H.264
最大ビットレート	40 Mbps
遅延	70 ms (1080p 60fps)
動作周波数 ^[1]	2.4000~2.4835 GHz、5.150~5.250 GHz、5.250~5.350 GHz、 5.470~5.725 GHz、5.725~5.850 GHz（日本国内では、 5.8 GHz帯は使用不可）
伝送電力 (EIRP)	2.4 GHz：<33 dBm (FCC)、<20 dBm (CE/SRRC/MIC（日本）) 5.8 GHz：<33 dBm (FCC)、<14 dBm (CE)、<23 dBm (SRRC)
対応バッテリー	WB37 インテリジェント バッテリー、NP-Fシリーズバッテリー
動作環境温度 ^[2]	-10°C~40°C

[1] 現地の法規制により、国によっては、5.1/5.2/5.8GHz周波数帯が使用できない、または、5.1/5.2GHz周波数帯が屋内でのみ利用可能である場合があります。5.600~5.650 GHzは使用しません。（日本国内では、5.8 GHz帯は使用不可）

[2] WB37 インテリジェント バッテリー使用時、0°C以上の温度の環境でデバイスを操作することを推奨します。0°Cを下回る環境で使用する場合、バッテリーを保温する対策を講じてください。

遠隔モニターフードの取り付け

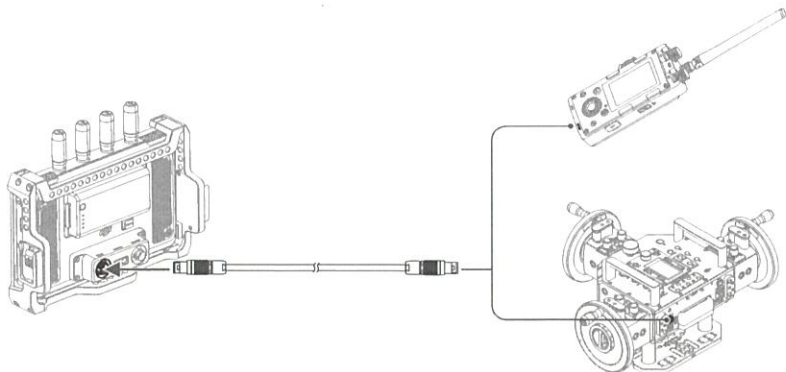
遠隔モニターフードを展開し、図のようにフードのベルクロを遠隔モニ拡張保護フレームの取り付け穴に通し、ベルクロをしっかりと取り付けます。



他の制御デバイスの使用

DJI Master WheelsまたはForce Proをモニターに接続して、トランスミッター デバイスを遠隔で制御します。

接続：DJI遠隔モニター拡張プレートモニターに取り付けます。DJI高輝度遠隔モニター制御ケーブルを使用して、DJI Master WheelsまたはForce ProのDC-OUTポートを拡張プレートのDC-INポートに接続します。



免責事項

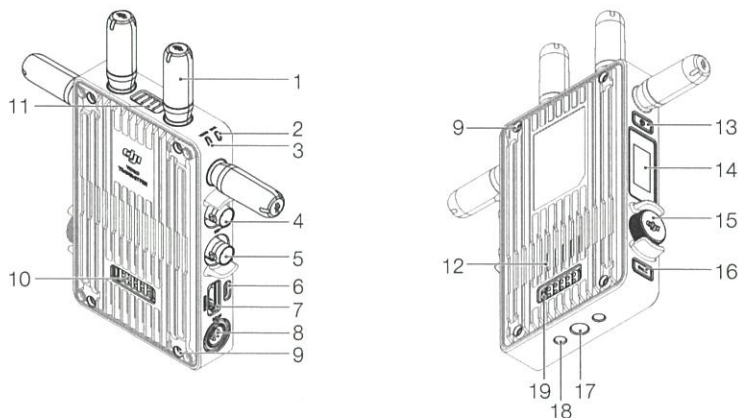
ご使用前に、この文書全体に目を通し、安全性とコンプライアンスに関するガイドラインについて注意深くお読みください。

はじめに

DJI™ 映像トランスミッターは、DJI の O3 Pro 映像伝送技術を採用し、最大 6 km* の伝送範囲、ビットレート 50 Mbps の HD 動画伝送、わずか 70 ミリ秒の低遅延を実現します。このトランスミッターは、複数の周波数帯に対応すると同時に、DJI 高輝度遠隔モニターまたは DJI 映像レシーバーと併用時には、複数のレシーバーと 1 台のトランスミッターを接続することができ、映画、テレビシリーズ、広告、ドキュメンタリーなどのメディア向けの映像制作に関する要件を満たします。


* FCC 準拠で、電波干渉のない環境下で、映像伝送システムを制御モードで動作させ、測定した値です。
(日本国内：4 km)

概要



1. 脱着可能なアンテナ
無線信号を伝送します。
2. リンクステータス インジケーター
レシーバーとトランスミッター間のリンクステータスを示します。点滅パターンに関する詳細は、「リンク」の項を参照してください。
3. 動画ステータス インジケーター
動画ソース信号入力の有無を示します。緑色に点灯している場合は入力があることを示し、赤色に点灯している場合は入力がないことを示します。
4. SDI 出力ポート
トランスミッターからの動画ソース信号を出力します。
5. SDI 入力ポート
動画ソースからの信号をトランスミッターに入力します。

6. USB-Cポート
USB-Cケーブルを使用してDJI Assistant 2 (Roninシリーズ) ソフトウェアに接続し、デバイスのアクティベーションとファームウェア更新を行います。音声通話用にマイク内蔵のヘッドフォンを接続します。ご使用前に、トランスミッター側でType-C機能を設定する必要があります。詳しくは「メニュー」のセクションを参照してください。
7. HDMIポート (Type-A)
動画ソース入力信号を受信します。
8. DC-INポート
付属の電源ケーブルを使用して映像トランスミッターに電力を供給します。電圧は6~18 Vで、最大電流は2 Aです。
9. M4ねじ穴
バッテリーアダプターまたはその他のアダプターを拡張用に取り付けるときに使用します。
10. 電源出力ポート
外部デバイスに電力を供給します。
11. 排気口
12. 吸気口

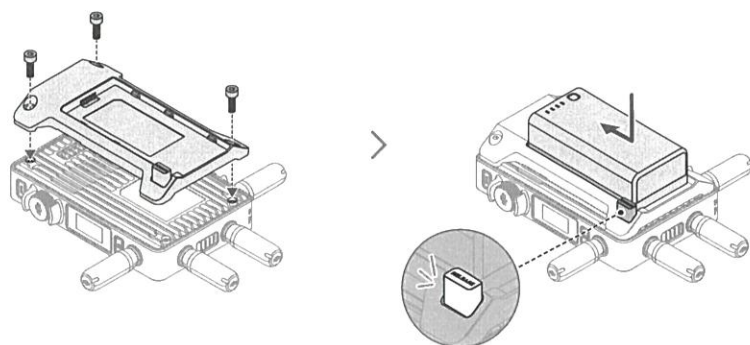
 排気口、吸気口、またはバッテリーアダプターの両側（バッテリーアダプターを取り付ける場合）を塞がないでください。過熱によりデバイスの性能に影響を及ぼす可能性があります。

13. 電源ボタン
1回押すと、電源が入ります。長押しすると、電源が切れます。
14. ディスプレイ画面
デバイスの状態とメニューが表示されます。
15. メニューダイヤル
ダイヤルを回すとメニューの設定を選択することができ、ダイヤルを押すと、メニューの設定を確定します
16. 戻るボタン
押すと、メニューの前の画面に戻ります。
17. 3/8-16 ねじ穴
18. 1/4-20 ねじ穴
19. 外部電源入力ポート
バッテリーアダプターおよび互換性のあるバッテリーを取り付けて、映像トランスミッターに電力を供給します。

取り付けと接続

WB37インテリジェント バッテリーの取り付け

41



初めて使用する前に、WB37バッテリー充電ハブ(USB-C)で充電して、WB37バッテリーをアクティベーションしてください。詳細については、WB37バッテリー充電ハブ(USB-C)のユーザーガイドを参照してください。

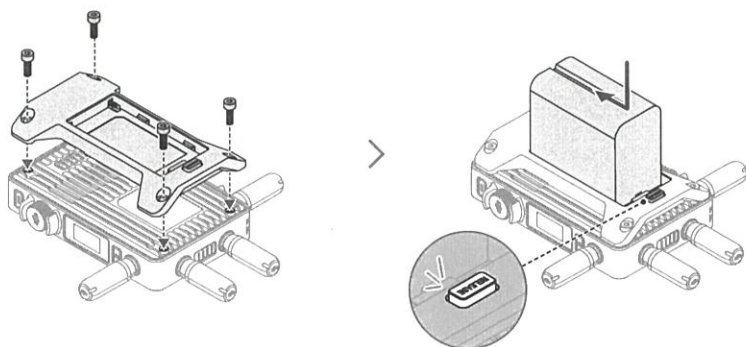
1. WB37バッテリーアダプターを映像トランスミッターの背面に取り付け、3本のM4×12ねじで締めます。
2. WB37バッテリーをバッテリースロットに挿入し、奥まで押し込みます。バッテリー取り外しボタンが飛び出ると、バッテリーが正しい位置に挿入されたことを示します。ボタンの状態を確認してください。

⚠ WB37バッテリーは動作環境温度範囲で使用するようにしてください。いかなる方法でもバッテリーの分解や穴あけを行わないでください。バッテリーの漏れ、発火、爆発が起こる恐れがあります。ご使用前に『WB37 インテリジェント バッテリー 安全に関するガイドライン』を参照してください。

バッテリーを取り外すには、取り外しボタンを押したまま、バッテリーを反対方向に動かします。

NP-Fシリーズバッテリーの取り付け

41

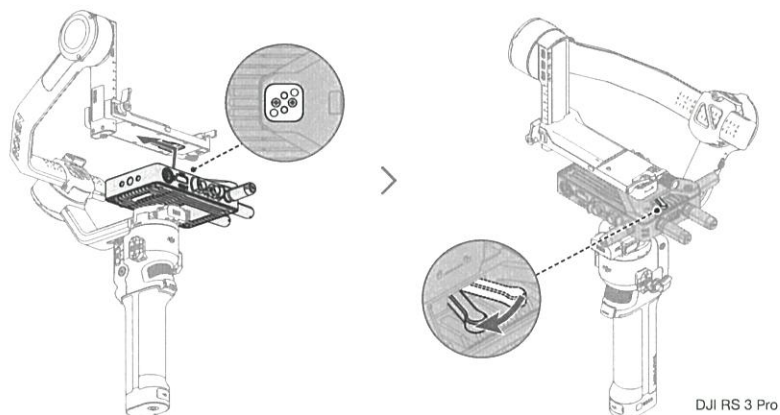
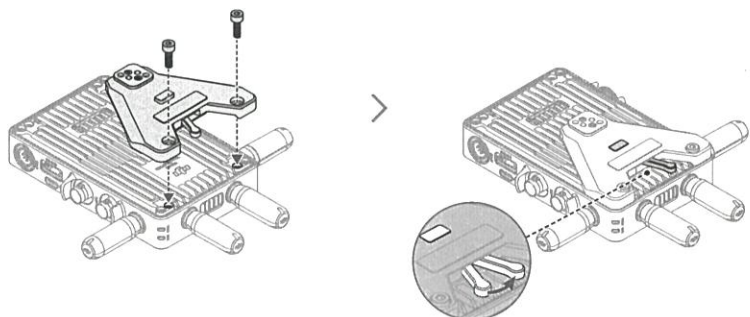


1. NP-Fバッテリーアダプター (TX) を映像トランスミッターの背面に取り付け、4本のM4×12ねじで締めます。
2. NP-Fバッテリーをバッテリースロットに挿入し、奥まで押し込みます。バッテリー取り外しボタンが飛び出ると、バッテリーが正しい位置に挿入されたことを示します。ボタンの状態を確認してください。

バッテリーを取り外すには、取り外しボタンを押したまま、バッテリーを反対方向に動かします。

RSジンバル取り付けプレートの取り付け

dlf



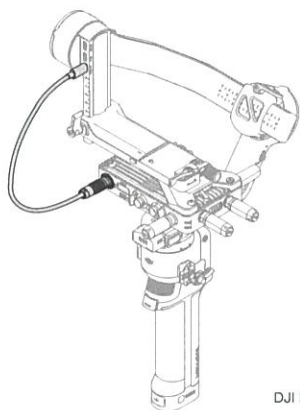
映像トランスミッターをDJI RSシリーズのジンバルまたはコールドシューを搭載した互換性のある他のデバイスと併用する場合は、RSジンバル取り付けプレートが必要です。次の説明では、例としてDJI RS 3 Proを使用しています。

1. ジンバル取り付けプレートを映像トランスミッターの前面に取り付け、2本のM4×12ねじで締めます。
2. ジンバル取り付けプレートのレバーを反時計回り（ロック解除マークの方向）に動かして、位置決めブロックを下げます。
3. ジンバル取り付けプレートのコールドシューをDJI RS 3 Proに接続します。
4. ジンバル取り付けプレートのレバーを時計回り（ロックマークの方向）に動かして、映像トランスミッターをロックします。

接続

DJI Transmission USB-C 電源ケーブル

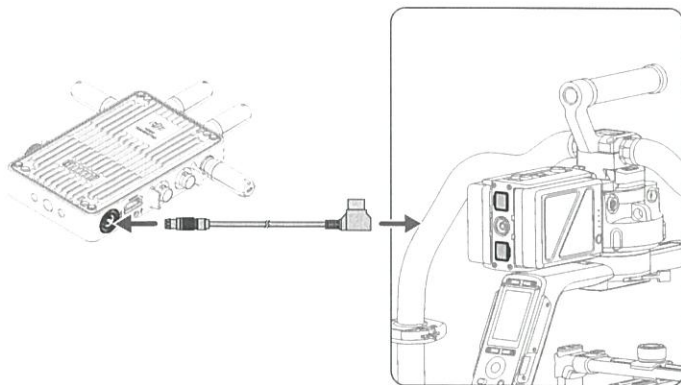
DJI RS 3 Proの映像伝送/LiDARレンジファインダーポート(USB-C)を、映像トランスミッターのDC-INポートに接続して、DJI RS 3 Proから電力を供給します。



DJI RS 3 Pro

DC - P-Tap電源ケーブル

Ronin 2のP-Tapポート (14.4 V)を、映像トランスミッターのDC-INポートに接続して、Ronin 2から電源を供給します。

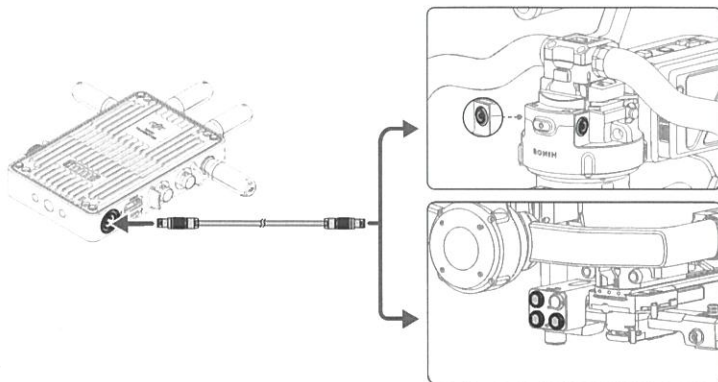


Ronin 2

DJI DC電源ケーブル

Ronin 2の電源ハブ上またはパン軸モーターの上にあるアクセサリ電源ポート (14.4 V)ポートを、映像トランスミッターのDC-INポートに接続して、Ronin 2から電源を供給します。

💡 Ronin 2のパン軸モーターの上にあるポートに接続する場合、映像伝送システムの制御モードは使用できません。



Ronin 2

アクティベーション

映像トランスミッターを初めて使用する場合は、アクティベーションが必要です。映像トランスミッターの電源を入れ、USB-Cケーブルでパソコンに接続します。DJI Assistant 2 (Roninシリーズ)を開き、DJIアカウントでログインし、対応するデバイスのアイコンをクリックして、画面の指示に従ってデバイスをアクティベーションします。

DJI Assistant 2のダウンロードはこちら：<https://www.dji.com/transmission/downloads>

リンク

ご使用前に、映像トランスミッターをレシーバーデバイスにリンクする必要があります。映像トランスミッターの映像伝送システムには制御モードと配信モードがあり、リンク方法がそれぞれ異なります。手順とリンクステータス インジケータの説明については、次の項を参照してください。

制御モード

- 映像トランスミッターの電源を入れます。リンクステータス インジケータが赤色と緑色に交互に点滅し、デバイスのリンク準備が完了したことを示すまで、映像トランスミッターのメニューダイヤルを長押しします。
- DJI 映像レシーバーの使用:
映像レシーバーの電源を入れます。ダイヤルを押して接続メニューに入り、ダイヤルを回してメニューの[制御]を選択し、ダイヤルを押して確定します。映像レシーバーを[制御A]

または[制御B]に設定し、ダイヤルを再び押しして確定します。ディスプレイ画面には[リンク中]と表示され、リンクステータスインジケータが赤色と緑色に交互に点滅し、デバイスがリンクしていることを示します。

DJI 高輝度遠隔モニターの使用:

遠隔モニターの電源を入れます。●●●をタップし、[System Menu] (システムメニュー)、[Connection Settings] (接続設定) の順に移動します。[Control Mode] (制御モード) を選択し、モニターを[Control Monitor A] (制御モニターA) または[Control Monitor B] (制御モニターB) に設定し、[Link to Control Monitor A/B] (制御モニターA/Bにリンク) をタップしてリンクステータスを開きます。

3. リンクが完了すると、リンクステータス インジケータが緑色で点灯します。

配信モード

1. 映像トランスミッターの電源を入れます。映像トランスミッターのメニューダイヤルを押し、ダイヤルを回してメニューの[Broadcast] (配信) を選択し、配信モードを有効にし、チャンネルを選択します。

2. DJI 映像レシーバーの使用:

映像レシーバーの電源を入れます。ダイヤルを押しして接続メニューに入り、ダイヤルを回してメニューの[配信]を選択し、ダイヤルを押しして確定します。検索結果が表示されるまで待ち、接続するデバイスを選択します。

DJI 高輝度遠隔モニターの使用:

遠隔モニターの電源を入れます。●●●をタップし、[System Menu] (システムメニュー)、[Connection Settings] (接続設定) の順に移動します。[Broadcast Mode] (配信モード) を選択すると、モニターは配信モードが有効になっている近くのデバイスを自動検索します。モニタリングするデバイスをタップすると、対応するデバイスからのライブビューが遠隔モニター上に表示されます。画面右側のカメラ番号をタップすると、ライブビューを更新するか、モニタリングしていたデバイスを切り替えます。

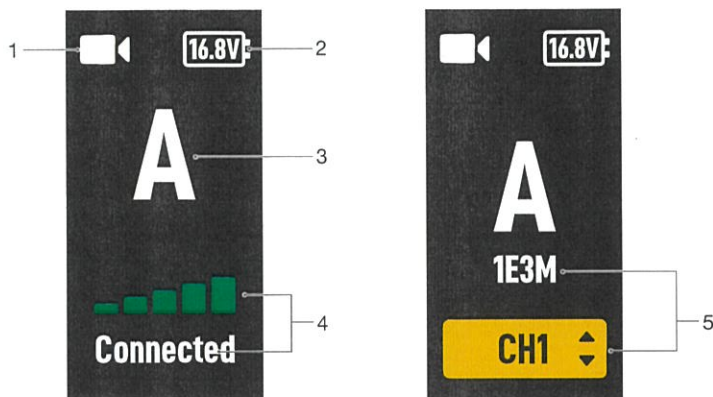
リンクステータス インジケータ

リンクステータス インジケータ	説明
赤色点灯	デバイスは起動していますが、接続していません。
赤色と緑色に交互に点滅	リンクしています。
緑色点灯	制御モードで正常にリンクしています。無線映像伝送が正常です。 配信モードが有効です。
赤色点滅	デバイスが故障しています。DJIサポートに連絡してください。

ディスプレイ画面操作

ホーム画面

1




1. 動画信号入力ステータス

 /  : 動画ソース信号入力の有無を示します。


2. 電源電圧

 : バッテリーまたはDC-IN電源入力の電圧が表示されます。


3. デバイス番号


 : 映像トランスミッターのデバイス番号が表示されます。メニューでその番号をA～Pの文字に設定できます。


4. 映像伝送信号品質と接続ステータス

 : 配信モードが無効である場合、レーザーとトランスミッターの間の接続状態と信号品質が表示されます。接続済（緑色）、弱信号（オレンジ色）、強い干渉（赤色）、接続切断（グレー）の4種類のステータスがあります。

5. 配信コードとチャンネル

 : 映像トランスミッターの配信モードが有効であるときにデバイスの汎用一意識別子 (UUID) が表示されます。

 : チャンネルモードが手動に設定されている場合、使用中のチャンネルが表示されます。メニューダイヤルを2回押すと、チャンネルを素早く調整できます。

 : チャンネルモードが自動に設定されている場合、このアイコンが表示されます。チャンネルを手動で調整することはできません。

メニュー

ホーム画面で、映像トランスミッターのメニューダイヤルを押してメニューを開きます。デバイス番号の設定、配信モードの有効化、配信画質や言語の選択、映像伝送チャンネルステータスとデバイス情報の表示が可能です。ダイヤルを回すとメニューの設定を選択することができ、ダイヤルを押すと、メニューの設定を確定します。戻るボタンを押すと、前の画面に戻ります。


配信画質

配信モードが有効な場合、メニューに[Broadcast Quality]（配信画質）設定が表示されます。[HD]と[Smooth]（スムーズ）のどちらかを選択します。これら2種類の画質は、遠隔モニターのダウンリンク帯域幅設定の40MHz (HD)と20MHz（スムーズ）に対応しています。画質を[Smooth]に設定した場合、HDに設定した場合より、さらに多くのチャンネル数を利用できます。

Type-C 機能

DJI Assistant 2でファームウェア更新にUSB-Cポートを使用する場合は、[USB]を選択します。

制御モードでトランスミッターとレシーバーのType-C機能を[音声通話]に設定し、マイク内蔵ヘッドフォンをUSB-Cポートに接続すると、トランスミッターとレシーバー間で音声通話が可能になります。音声通話の音量を調整するには、ヘッドフォンの音量ボタンを使用します。

 対応ヘッドフォンについては、DJI公式サイトの商品ページのFAQページをご覧ください。その他の48kHz/16bitデジタルヘッドフォンにも対応しています。

ファームウェア更新

DJI Assistant 2（Roninシリーズ）ソフトウェアを使用して、映像トランスミッターのファームウェアを更新します。

1. デバイスの電源を入れます。メニュー上で、Type-C機能が[USB]に設定されていることを確認します。USB-Cケーブルで、デバイスをパソコンに接続します。
2. DJI Assistant 2（Roninシリーズ）を起動し、DJIアカウントでログインします。
3. デバイスを選択し、画面左側にある「ファームウェア更新」をクリックします。
4. ファームウェアを選択します。
5. ファームウェアのダウンロードと更新が自動的に行われます。
6. ファームウェア更新が完了すると、デバイスが自動的に再起動します。

仕様

重量	約350 g (トランスミッター本体のみ、アンテナを除く)
サイズ	127×97×26 mm (アンテナを除く)
動作周波数 ^[1]	2.4000~2.4835 GHz、5.150~5.250 GHz、5.250~5.350 GHz、 5.470~5.725 GHz、5.725~5.850 GHz
伝送電力 (EIRP)	2.4 GHz : <33 dBm (FCC)、<20 dBm (CE/SRRC/MIC (日本)) 5.8 GHz : <33 dBm (FCC/SRRC)、<14 dBm (CE) 5.1 GHz : <23 dBm (FCC/SRRC/CE/MIC (日本)) 5.2 GHz : <30 dBm (FCC)、<23 dBm (SRRC/CE/MIC (日本)) 5.5 GHz : <30 dBm (FCC)、<23 dBm (CE/MIC (日本))
消費電力	11 W
電源電圧	外部電源入力ポート : 6~18 V DC-INポート : 6~18 V
出力電圧	電源出力ポート : 6~18 V
駆動時間 ^[2]	3時間40分
入力動画フォーマット	1080p23.98/24/25/29.97/30/50/59.94/60、 720p50/59.94/60
出力動画フォーマット	1080p23.98/24/25/29.97/30/50/59.94/60、 720p50/59.94/60
入力音声フォーマット	HDMI (エンベデッド対応)
出力音声フォーマット	PCM
映像伝送システム	O3 Pro
最大ビットレート	40 Mbps
遅延	70 ms (1080p 60fps)
動画コーディング形式	H.264
最大伝送距離	6 km (FCC)、4 km (CE/SRRC/MIC (日本)) (障害物、電波干渉のない場合)
最大通信帯域幅	40 MHz
動作環境温度 ^[3]	-10°C~45°C

[1] 現地の法規制により、国によっては、5.1/5.2/5.8GHz周波数帯が使用できない、または、5.1/5.2GHz周波数帯が屋内でのみ利用可能である場合があります。5.600~5.650 GHzは使用しません。(日本国内では、5.8 GHz帯は使用不可)

[2] WB37インテリジェント バッテリーが完全に充電された状態で、DJI 高輝度遠隔モニターを使用し、室温25°Cの環境でテストした測定値です。

[3] WB37 インテリジェント バッテリー使用時、0°C以上の温度の環境でデバイスを操作することを推奨します。0°Cを下回る環境で使用する場合、バッテリーを保温する対策を講じてください。